



なきごえ



1991

6

森 豊



岩場の、孤独の、幻の動物といわれたニホンカモシカに初めて逢った時、私はそのずんぐり、むっくりとした体型に、むしろ親しみを覚えました。いわゆる

不恰好なのですが、「生きている化石」として、太古のロマンを感じさせてくれます。

このカモシカと私が、つきあいを深めていくまでには、紆余曲折した道がありました。その道を振り返ってみると、私は中途半派の代表のようでした。学生時代、コメに興味を持ち「稲の道」(命の根が詰まってイネになったという説もある程、生存に欠かせないのが稲だが、日本に渡来した道は解明されてはいない)に憧れ、この伝播経路を探り、稲作を試みたいと考えていました。(アジア稲の起源伝播が、カモシカのきた道につながるものがあるのではないかと、現在の仕事に就いてから再び、関心を持っている)山岳部に入部したことで、あちらこちらの山へ登山。しかし性格なのか、ピークハンターにはなれず、もっぱら山歩きばかり。いわゆる頂上を目指すことよりも、楽しむことばかりの山楽であり、そこで山歩き山暮しの生活を求め、縁あって御在所岳で、カモシカに囲まれて暮らすことになったわけです。三重県と滋賀県をわける鈴鹿山脈は、特別天然記念物のニホンカモシカが多数生息しています。鈴鹿山脈は、日本海側と太平洋側の気候が交差し、植物群相、地層などが特異なところ。カモシカ銀座と言われる山脈のほぼ中心、御在所岳(1,212m)の山頂にある日本カモシカセンターは、御在所山岳動物園と御在所自然科学博物館からなっており、カモシカの仲間が集まった”単科動物園”です。センターまでは、ドリーム・スカイウェイと呼ばれる御在所ロープウェイ(全長2,200m)に乗

て山頂まで12分の空中散歩を楽しみ、眼下には「カモシカの谷」が広がり野生動物の宝庫です。首をかしげて岩場に立つ姿から「山の哲学者」と言われるニホンカモシカをウォッチングできます。春のツツジの群生・夏の避暑をするアカトンボの大群・秋の紅葉・冬の樹氷と御在所岳は、まさに天然博物館です。四季折々の自然がとても美しく輝いています。自然界の美しさの中には、素朴さと厳しさがありません。たとえば冬の樹氷、氷点下の世界での芸術は自然の偉大さを感じさせてくれます。自然を愛すると言うことは、その厳しさを知ることではないでしょうか。山頂での8年余の生活は、未知なる発見により「？」→「！」の感動の毎日でした。自然と科学の宝庫の山は、現象と推理の大博物館です。また兼任をしていた青少年の宿・御在所ユースホステルでの管理人の仕事は、私にヒトとヒトの間のつながり、結びつきという“間”の大切さを教えてくれました。人間が間抜けにならぬように、動物たちはたえず注視しています。このユースホステルでの「観察会」では、キツネ・テン・タヌキ・ノウサギなどを発見し、食べあと、糞などから動物たちの生活が見えてきます。また雪の上での「足あと」観察は、大きさ・形・歩き方などよくわかり、暮らしぶりを、動物たちを驚かせることなく知ることができます。雪の上に残された「足あと」からわかる氷点下の世界の中で生きている動物たちの懸命な“姿”は私たちに「生きる」ことの大切さを教えてくれます。

(余談ですが、古典落語には動物を題材にした噺が数多くあります。鼠・牛・馬・猪・狸・狐……こうして動物たちと「ことば」として出会うことができる“落語”が、私は大好きです。「七度狐」の噺は、その昔不思議なことがあれば、狐のせいにした、のどかな時代を思い浮べます。古典落語の世界は、自然とのつきあい方がとても素敵な時代であつたろうと思います。川が生活と密着し、月のあかりに感謝し、山海の珍味に舌鼓を打つ、自然の恵みを多分に生かしながら、人々は大切に育てあげてきました。野生動物たちの“声”に耳を傾けて、かもしかの嘶家となりそれを、『ことば』として、伝えることができたなら、このことが、動物と私をつないでいく道になると思う。)

財団法人日本カモシカセンター 理事

なきごえ6月号もくじ

動物と私 2
ニホンコウノトリ只今見合中 3
ボルネオの野生哺乳動物 4・5
ホッキョクグマの繁殖V2 6・7
動物園グラフ・動物園日記 8・9
公園・花だより 10
動物園ニュース 11

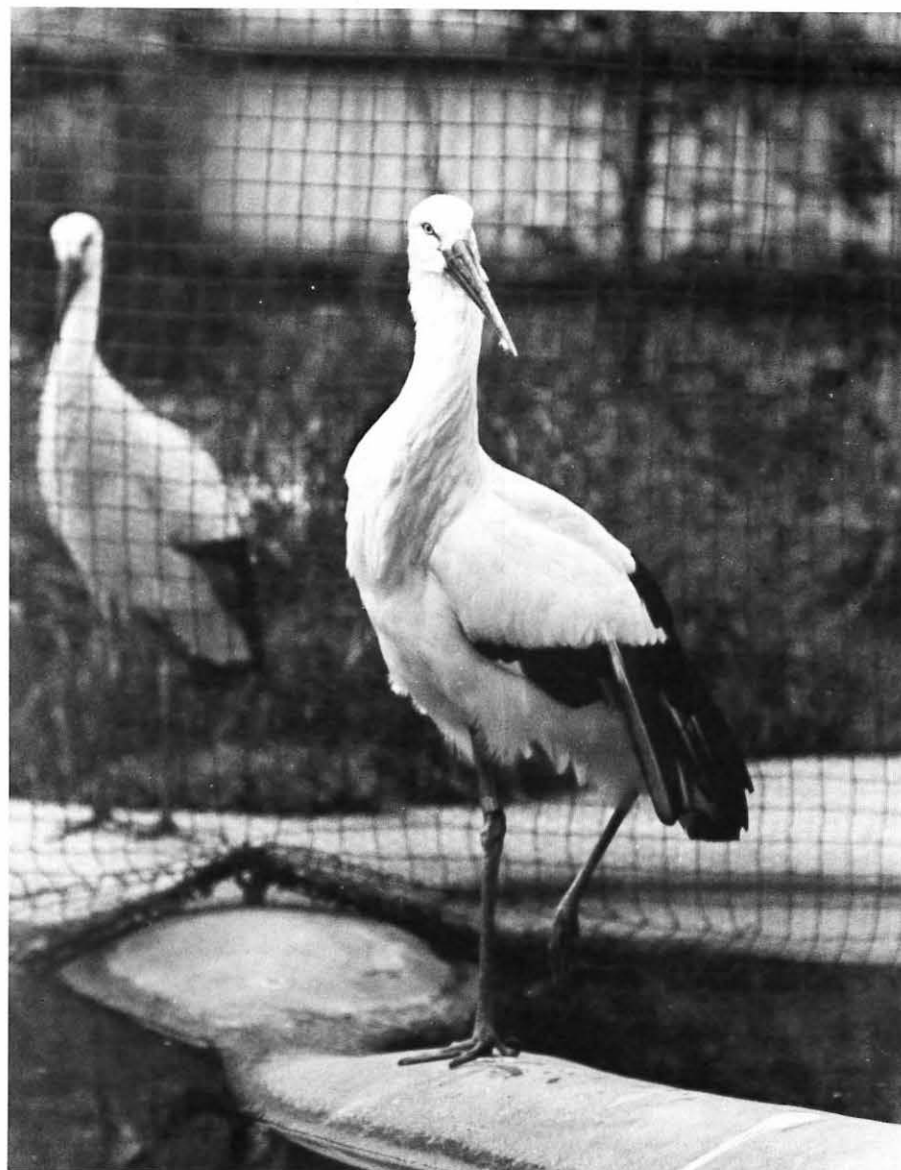
表紙の写真説明

“オオガラゴ”

(Galago cvassicaudatus)

原猿類でガラゴ科に属し、ガラゴ科では最大で、やわらかい毛の大きな尾を持つ。夜行性で森林にすみ、果実、花、卵、小鳥などを食べ、アフリカ中央部に分布する。

(撮影：野口 秀高)



“ニホンコウノトリ、只今見合中!!”

今年4月、多摩動物公園よりメスを2羽お借りしました。現在、当園のオスと見合中で、相性さえ合えば、来年は繁殖が期待できることでしょう。

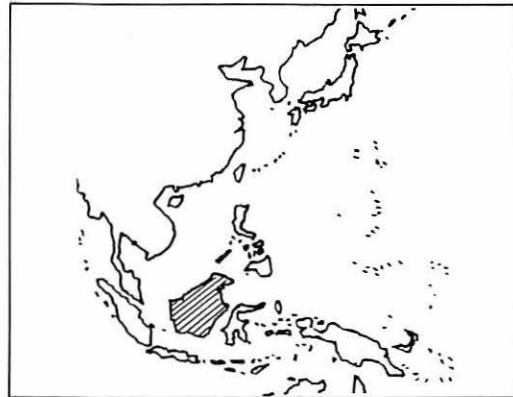
(飼育課：森本 委利)

ボルネオの野生哺乳動物

北浦賢次

なまごえ27 (6), 1991

私は、1986年12月から1990年8月までの3年8ヶ月間、マレーシアのサバ州サンダカンにあるセピロク・オランウータン・リハビリテーションセンターに海外青年協力隊の獣医師として勤務していました。そこでは、オランウータンの保護、観察、治療、自然復帰のほか、様々な野生動物の治療や観察を行ってきました。本誌では、ボルネオの自然とそこに生息する野生哺乳動物について簡単に説明します。



ボルネオは南緯4°から北緯7°、東経109°から119°に位置し、インドネシアのカリマンタン、マレーシアのサバ・サラワク州、ブルネイの三国を有する面積約743,250km²の世界でも3番目に大きい島です。

地形学的には、アジア大陸棚の一部であるスダラ島の東縁に位置し、西部を東シナ海によりマレーシア半島と隔てられ、南部には深度200mに達しないジャワ海に取り囲まれています。また東部を深度2,000m以上にも及ぶマカッサルストレイトによりセレベスと隔てられ、深度200m以下の海洋域がボルネオの北部から北東にかけてのび、フィリピン諸島のスル海にまで達しています。

中央ボルネオには不規則な丘陵地や低山帯が多く、比較的平坦な低山帯が東から南、南西部に続いています。山岳地帯はほとんどが標高1,000m以上ですが、2,000mに達する山はわずかで、3,000mを超えるものはサバ州にあるキナバル山(4,101m)のみです。

気候は典型的な熱帯多雨です。一年を通して高温

で、標高1,000m以下の地域では月平均気温は20℃を下げることはなく、また27.5℃を超えることも稀です。年間降水量は、ボルネオの大部分の地域で2,540mmを越えますが、地域によっては5,000mmを超えるところもあります。北東モンスーンは、10月から1月にかけてボルネオ東部に激しい雨をもたらす、南西モンスーンは5月から9月に多量の雨を西部にもたらします。地域によっては1月の平均降水量が50mm以下のところもありますが、一般には100mm以下のところはほとんどなく、雨の多い時期と少ない時期はあってもモンスーンの影響でボルネオにははっきりとした乾期はないといってもよいでしょう。また、一般に雨の多いところでは湿度も高く、たとえばサンダカンでの月平均相対湿度は午後2時で67~77%、午後6時では91~93%もあり、森林部では更に高くなっています。

1975年頃まではボルネオの75%はまだ原生林で覆われていたと言われていましたが、現在では焼き畑農業や伐採の影響によりほとんどが二次林となっており、特に焼き畑による原生林の減少はこの15年間で急速に増大しています。

ボルネオの海岸域ではマングローブ林やニッパパーム林が見られ、標高1,000m位までは土地因子や地形因子による違いはあるものの熱帯常緑樹林帯が広がっています。ここでは地上約30~65mで密集したキャノピーを作り、いくつかの層からなる典型的な熱帯多雨林を構成しています。地上性のもはキャノピーや土壌成分に大きく依存していますが、低地や平坦地の樹幹部にみられる養生植物、地衣類、ラン、苔類等はいたるところで見られます。高山地帯では常緑の高山植物が見られ、生長は低いですが養生植物や地衣類に富んでいます。

動物地理学的には、ボルネオはパワランと共に東洋区、スダラ亜区のボルネオ・パラワン地区に属し、先に述べたような地理・地形学的要因、気象的要因人為的要因など様々な要因により特異な動物相を形成しています。



現在ボルネオには、家畜化されたものもいれて約221種(うち翼手目92種)の陸生哺乳類が確認されていますが、そのうち35種はボルネオ固有のものであるといわれています。

食虫目にはジムヌラ(ムーンラット)などハリネズミ科のものが2種とボルネオ固有のクロジャコウネズミを含むトガリネズミ科のものが6種が認められています。写真のムーンラットはサンダカンのセピロクの森で撮影したもので、一見名前の通りネズミのように見えますが、齧歯目とは別目で土中のミミズや昆虫などを食べています。

翼手目はボルネオの哺乳類の半数近くの92種を占

なまごえ27 (6), 1991

め、果実や花を主食とするフルーツバットの他、カグラコウモリ科のコックスカグラコウモリ、ダヤカグラコウモリとヒナコウモリ科のボルネオアブラコウモリの3種の固有種がいます。

ツパイ目にはツパイ科のもの10種が認められていますが、そのうちシマツパイ、ヤマツパイ、ペインテッドツパイ、アカオツパイ、ミナミホソオツパイの5種のボルネオ固有種がいます。(ツパイは以前は霊長目の一員とされていましたが、現在では独立した目として取り扱うことが多いようです。)

テングザル(*Nasalis larvatus*) 霊長目としては、原猿類にロリス科のスローロリス、メガネザル科のボルネオメガネザルの2種、真猿類にオナガザル科、テナガザル科、オランウータン科の11種がいます。真猿類の中でオナガザル科のテングザル、ホーズリーフモンキー、シロビタイリーフモンキーの3種がボルネオ固有種です。写真のテングザルはサバ州のスカウキナバタン



ガン川のほとりで幸運にも撮影できたものです。また、アップで写っている雄のオランウータンは同センターでリハビリをし、森に帰した「シンボー」と言う個体です。

食肉目にはクマ科(マレーグマ:1種)、イタチ科(ハダシイタチ、コツメカオランウータン(*Pongo pygmaeus*)ワウツなど:7種)、ジャコウネコ科(ハクビシン、ピントロングなど:9種)、マングース科(ホーズマングースなど:3種)、ネコ科(ウンピョウなど:5種)など合わせて25種があり、このうちジャコウネコ科のクロヘミガルスとマングース科のホーズマングースがボルネオ固有種となっています。



アジアゾウ (*Elephas maximus*)

長鼻目ではゾウ科のアジアゾウが生息していますが、これは数百年前にスルのサルタンによって持ち込まれたものだと言われています。写真のアジアゾウはやはり

センターに保護されたもので、入所当時はひどい栄養不良でしたが、今は元気になりセンターの人気者になっています。

奇蹄目ではサイ科のスマトラサイとジャワサイが生息していますが、近年共に絶滅の危機に瀕しています。



スマトラサイ (*Dicerorhinus sumatrensis*) 写真のスマトラサイは「ルンパライ」と言う名の雌で、これも保護されたものです。国を挙げて繁殖に取り組んでいますが、現在までのところまだ成功していません。

偶蹄目にはイノシシ科のヒゲイノシシ、マメジカ科のジャワマメジカとオオマメジカ、シカ科のサンバー、ホエジカ、ボルネオホエジカそしてウシ科のバンテンの7種が生息しボルネオホエジカが固有種となっています。

齧歯目はリス科33種、ネズミ科26種、ヤマアラシ科3種の計62種と翼手目に次いで種類が多く、またボルネオ固有種も20種と全固有種の6割を占めています。リス科ではフサミミツサビオリス、キナバルリス、トマスコロムササビ、コギトモモンガなど14種が、ネズミ科ではヤマシダトゲネズミ、ボルネオオナガマウス、ボルネオヤマネマウスなど6種が固有種です。

この他、皮翼目ヒヨケザル科のマレーヒヨケザルや有鱗目センザンコウ科のマレーセンザンコウの2種が生息し、ボルネオの哺乳類相を形成しています。

このように、ボルネオには多くの哺乳類が生息しており、サバ州でもこれらの野生動物を保護するため様々な活動を行っていますが、森林伐採に伴う森林面積の減少はそのままこれらの野生動物の生息域の減少につながっています。

現在、マレーシア、インドネシアなどでは、これらの野生動物を含む自然環境を観光資源としてとらえ観光産業の発展に力を注いでいますが、自然と観光との接点をどこに置かずか充分な考慮が必要だと思っています。

(財団法人 日本野生生物研究センター研究員)

§ はじめに

昨年11月30日、1頭のホッキョクグマの赤ちゃんが生まれました。当園では1987年に生まれた“こゆき”以来の順調な育成を示しています。“こゆき”は、日本では8頭目の、北海道以外では初めてのホッキョクグマの育成成功例となりましたが、昨年生まれた赤ちゃん“みゆき”は、“こゆき”に続いて、日本では9頭目、北海道以外では2頭目の育成成功例となります。

今回はこの“みゆき”の繁殖経過と成長についてお話したいと思います。

§ 両親の来歴と繁殖経験

父親“ユキオ”は、北海道旭川市旭山動物園で1979年12月に生まれ、母親“ユキコ”は、米国タルサ動物園で1979年11月に生まれたもので、1980年12月、1歳のときに、ともに当園に来園しました。

“ユキコ”の出産は、1986年から昨年まで4回あり、そのうち2回目の1987年の出産において、育成に成功したことになります。



赤ちゃんの写真撮影に初成功(55日齢)

§ 4回目の出産準備

昨年、育成に失敗した原因として考えられたのが給水のやり方です。母親は出産前より産室に閉じ込められ、絶食の状態では給水を受けません。これまで産室内にあるプールを経由して給水を行っていました。水は常時少しずつ出され、プールの底にある排水口より出ていくことになっており、母親は、プールの底に少したまる水をなめて水分を摂取することになるわけです。ところが、前回は、母親が巣材として産室に置かれたワラをプールの中まで持ちこんだらしく、それが排水口にたまり、栓の働きをしてしまったようです。これによってプールに少し水がたまり、母親は出産後も水を飲む以外に全身をびしょ濡らしてしまい、ぬれた体でワラの巣にもどって子育てをしたものですから、ごくうすくしか体毛がはえていないホッキョクグマの赤ちゃんにとっては、体温が保てずに死亡してしまったものと考えられました。

そこで、水の供給を、プールを経由しないでやれるように水道水の配管工事を前もって実施しました。

出産準備にむけての第1回ホッキョクグマ繁殖プロジェクト会議を、9月19日開催し、11月中旬を出産予定とした計画を立てました。

その計画に従い、まずは9月末に内部寄生虫の駆除のための薬の投与から始まり、10月に入ってから、産室と産室の消毒、合板を用いて産室の遮光を行い、観察のためのマイクロホンの設置も行い、10月22日からは、巣材としてワラを入れ、ユキコの屋外放飼をやめました。そして10月31日からは給餌を中止し、11月3日午前10時、産室にユキコを閉じ込め、今後、獣舎の中には全く立ち入らないことにしました。

§ いつもの出産兆候がない

閉じ込めたのはいいのですが、一つ気がかりなことがありました。それは、我々が出産兆候とみている食欲の低下や産室内への餌の持ち込みがなかったことです。いつもは10月に入るとその兆候が顕著にみられるのですが、閉じ込め前まで食べる餌量に変化は全くなく、かつ餌を産室に持ち込もうという行動もみられませんでした。このことから、妊娠の可能性は薄いのではないかと、我々も疑惑の念を持たずにはいられていませんでした。しかしながら、他園でも、出産前であっても全く食欲の低下を示さないホッキョクグマもいるらしく、繁殖プロジェクト会議においても、このような出産兆候がない場合でも、11月中旬を出産予定として産室に閉じ込めることを申し合わせていました。

§ 音だけによる観察

産室に閉じ込めた11月3日から、マイクロフォンによる音だけの観察が始まりました。オスの“ユキオ”はこの日から、屋外放飼場で一日中過ごすことになり、獣舎の屋内(産室)には、“ユキコ”だけがいることとなります。よってマイクロフォンによって拾われる音は“ユキコ”の音だけかというところではありません。外から様々な雑音が絶えず入ってきます。横を走る電車や車、時には救急車の音。園内放送や入園客の話し声。ホッキョクグマ舎前にあるサル山のニホンザルの鳴き声などなど。“ユキオ”はユキオで、放飼場側からシャッターを時折ガタゴト、ガタコト。毎日観察していた我々にとって、なんと騒々しいところに獣舎が建っているのだろう



授乳中

と、“ユキコ”がかわいそうにもなってきます。とはいっても、“ユキコ”はいつものこの音に慣れてしまっているのでしょうか。産室内に入れられた“ユキコ”は、いつものようにのんきにいびきをかいて寝ていました。起きていた時は、ハーハー、ハーハーと割合はよい呼吸をして産室内を歩きまわっていたり、時にはジュージューと給水口から水を飲んでるところも観察できました。

§ 出産・子育て

出産は予定日の11月中旬をすぎてもみられませんでしたが、そして11月28日、第2回目の繁殖プロジェクト会議を持ち、今後いつまで“ユキコ”の出産を待つか検討しました。他園の例によれば、同じホッキョクグマでも、出産日が1ヵ月近くもずれた例が数例みうけられるため、“ユキコ”の閉じ込め中止は、12月10日以降に持ち越すことにしました。

その会議から3日後の11月30日、朝10時10分。マイクロフォンにつながるアンプのスイッチをオンにした瞬間、元気なホッキョクグマの赤ちゃんの声を

聞くことができました。「やった!!」という感じでした。待ちに待った赤ちゃんが生まれたのです。その声は、“こゆき”が生まれたときのものより、さらに大きく、また力強く感じられました。きっと元気に育ってくれることだろうと心ひそかに思ったものです。

ホッキョクグマの赤ちゃんの鳴き声は、生まれた当初はネコの鳴き声の「ニャー、ニャー」という声に似ていますが、しだいにその声は太くなり「ニャー」というよりも「ギャー」という声に変化し、そのほかにも「ウーウー」や「ウォーウォー」など、鳴き方の強さの加減で、鳴き声の音質が変わるのです。

生後10日も過ぎるとしだいに鳴く回数は減少しますが、子供の鳴き声が聞こえないことはありませんでした。

§ 79日目の対面

年が明けた1月8日、第3回繁殖プロジェクト会議が開催され、1月28日に母子の初確認と初給餌のため、飼育担当者1名が獣舎の中へ入ることに決まりました。

当日は担当者が獣舎入口から「ユキコ、ユキコ」と呼びながらゆっくりと中へ入りました。産室前面の給餌口にはられた40cm角の板をはずすと、母親の“ユキコ”の姿を認めることができました。少しやせてはいますが、体のよごれはみられません。産室に閉じこめられて以来担当者とは79日目の対面です。「“ユキコ”ご苦労さん」という言葉が思わず出たことでしょう。この日は、赤ちゃんの姿を見ることができました。そして“ユキコ”も元気で、与えた少量の餌もしっかりと食べてくれたのでほっとしました。

§ 子供の初確認と成長

翌日から毎日午前と午後2回獣舎に入り産室の清掃と給餌をすることになっていましたので、その日の朝に子供をはじめ確認することができました。“こゆき”の時もそうでしたが、全身真白で、ネコ位の大きさでした。歩くのはまだまだおぼつかなく、まるでぬいぐるみか動いているといった感じでした(生後53日目)。

1月24日(生後55日目)には、産室の奥の方で子供の全身を見ることができ、写真も撮ることができました。

1月30日(生後61日目)には、よたつきながらも、産室前面の手前まで歩いてやってきました。

2月3日(生後65日目)、母親が隣の産室に入ったので、産室にいる子供を1頭だけにすることができました。そして、産室内へ入り性別を確認することができました。この子はメスでした。確認している間も、眠り込んだままで、なんとのんきな子供だろうと我々もあきれかえっていました。

2月7日(生後69日目)。この頃、足もかなりしっかりし、母親に与えたエサ(馬肉やパン等)をな

めるようにもなっていました。リングは少しは食べているようです。体長は55cmにもなりました。

2月17日(生後79日目)。クマ用ベレットを少しだけですがはじめて食べました。母親にほんとうによくジャレつき、走り回ったり、ころがったりとても活発です。お姉さんの



固型食を初めて食べはじめたとき(77日齢)

“こゆき”よりずっとやんちゃな子供の子供のようです。2月23日(生後85日目)。パンや白菜も少し食べ、翌日には肉食獣用ソーセージも食べました。

2月27日(生後89日目)。哺乳回数が増え、5~10分おきに母親の乳首に吸いつくようになりました。

3月13日(生後103日目)。馬肉を足でおさえ、口でちぎって食べるところを初めて確認しました。

3月18日(生後108日目)。母子を屋外放飼場に出しました。子供は屋外の風景をはじめ見るようになりました。予期していたのとは裏腹に、割合スムーズに屋外に出ましたが、放飼場には、かなりの段差があちこちにあり、小さい子供の体では降りるをなかなかうまくこなすことができないようでした。母親の“ユキコ”は10月27日から142日ぶりに屋外に出たわけで、プールで思いっきり泳ぎたいわけですが、子供を放っておくこともできずびったりと付き添ってやっていると、母親の“ユキコ”の子供に対する強い母性愛を感じるところです。

4月11日(生後132日目)。この日、子供がプールで初めて泳いでいるのを確認しました。この日でも、プールに落ちて泳がずに母親から助けられたり、自力ではい上がったりしたのを4回程確認していました。

4月16日(生後137日目)。今度生まれた子供の名前を公募していましたが、応募数が最高であった“みゆき”に決まりました。

4月29日(生後150日目)。

“みゆき”はプールへ自分から飛び込むようになり、母子ともそろって泳ぐ姿が時々みられるようになってきました。



プールで泳ぎはじめたころ(133日齢)

§ おわりに

今後の出産も全て育成に結びつくよう、関係者一同、努力を積み重ねていきたいと思っています。

なお、今年“ユキコ”には育児に専念してもらい、来年再び繁殖に挑戦してもらおう予定です。

(飼育課:森本 委利)

動物園グラフ

童話やぬいぐるみで人気のあるクマ。当園には4種類8頭を飼育しています。ホッキョクグマの赤ちゃんは特に人気者だよ。

(撮影：大野 尊信)



ニホンツキノワグマ

冬眠から覚めたわけではありません。



エゾヒグマ

北海道に生息しています。日本では最大の動物なんだ！



胸の白いところが月の輪のいわれです。



暑さにはとても弱いんだ。



マレーグマ

東南アジア原産で、果実や甘い物が好物。



ホッキョクグマ

「みゆき」のお父さん「ユキオ」をお忘れなく



ピロードのような短かい毛は暑い国生まれの証かな



みゆきとお母さんのユキコもう子育てはすっかりベテランです。

3・4月の動物園日記

- 3 / 31. 今季最初のバーバリシープが生まれました。
- 4 / 1. 本日付けで、中山飼育課長が新所長に就任しました。
- 4 / 2. 2/12生まれのジャガーの赤ちゃんの離乳を始めました。
- 4 / 4. ダチョウが交尾しました。
- 4 / 5. バーバリシープが2頭生まれました。
- 4 / 6. 東京都多摩動物公園からチリーフラミンゴ10羽が、東京都恩賜上野動物園からジャングルキャット1番が寄贈されました。東京都多摩動物公園からニホンコウノトリ

2羽を借り受けました。

- 4 / 8. 高知県に新しくできるのいち動物園の獣医師と飼育係の方計4名が研修のため来園されました。
- 4 / 10. キジ舎の鳥たちが順調に産卵しています。
- 4 / 11. 今季最初のニホンザルが生まれました。ホッキョクグマの赤ちゃんが初めて自分からプールに入り泳ぎました。
- 4 / 12. 恒例の近畿地区動物園獣医師勉強会を開催しました。
- 4 / 14. ヒドリガモの雌1羽を保護しました。
- 4 / 15. 夜行性動物舎のセスジクスクスの赤ちゃんが袋から顔を出したのを確認しました。

- 4 / 16. オランウータンの雄ブルと雌サツキの同居展示を始め、交尾を確認しました。
- 4 / 17. ヤマシギを1羽保護しました。
- 4 / 18. ツグミを1羽保護しました。
- 4 / 20. マントヒヒが1頭生まれました。今季最初のコサンケイが人工ふ化しました。
- 4 / 21. 今季最初のトカラヤギが生まれました。春の動物と花のフェスティバルを始めました。第72回動物のお話とスライドの会「ホッキョクグマのお話」を開催しました。ホッキョクグマの赤ちゃんの名前が「ミユキ」に決まり、命名式を行いました。

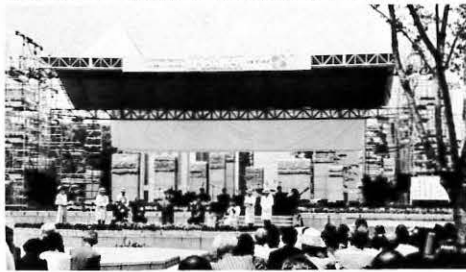
- 4 / 22. ライオンが血を吐いたので、胃カメラで検査し治療を始めました。
- 4 / 23. モモイロペリカンの雄が入園し検疫を始めました。
- 4 / 24. 今季最初のアカハシハジロが人工ふ化しました。
- 4 / 26. トビとアオサギを各1羽保護しました。
- 4 / 27. 今季最初の高イロコクジャクが人工ふ化しました。
- 4 / 28. フサオマキザルが1頭生まれました。ワライカワセミが1羽自然ふ化しました。アムールトラが交尾しました。

公園・花だより

なぎごえ27 (6),1991

☆ 花の万博メモリアルイベント 「はならんまん'91」の開催

昨年4月1日から9月30日まで鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会、EXPO'90」を記念し、その基本理念を継承し、花と緑のあふれる街作りを推進するため、当天王寺動植物公園事務所の天王寺公園を会場として第1回の花の万博メモリアルイベントが開催されました。この花博メモリアルイベントは今後も毎年、会場をかえ行われる予定ですが、今



はならんまん'91オープニングセレモニー

回は多彩なイベントと天候に恵まれたこともあってゴールデンウィーク期間中には公園のみで5万1千人の有料入場者があり、動物園との共通入場券及び無料入場者並びに招待者を加えると20万人の人数があったものと思われます。

園内は80万株のパーバテナテネラ、2万4千株のペゴニア、ブーゲンビレア、インパチエンス、マリーゴールド、ゼラニウムなど100万株の花を揃え、

花と緑を主体に「人と自然、人と人のふれあい」をテーマに、「花と緑の快適空間」、「花と緑の豊かな時間」、「花と緑のまちづくり」を市民にうたえました。

初日の4月29日は前日からの雨で、開園時も小雨がバラつく状態でしたが、オープニングセレモニーが始まる10時半すぎには見違えるぐらいにカラッと晴れわたり、好運な幕開けとなりました。期間中のイベントはクラシックあり、ジャズあり、プラスあり、



パーバテナテネラ80万株の花のじゅうたん

ダンスあり、ミュージカルありストリートパフォーマーありで、入園者に目と耳とを十分に楽しませてくれました。

大阪市24区の区の花のデザインマーク

国際花と緑の博覧会の理念を継承する意味で昨年10月に24区の区の花のデザインマークが決定しましたが、今回は誌上を借り紹介しましょう。

(管理課：中垣 圭史)

北区 バラ	都島区 サクラ コスモス	福島区 ゴザンカ ピンカ	此花区 サクラ チューリップ	中央区 バラ パンジー ウメ	西区 サクラ バラ	港区 サクラ ヒマワリサクラ	大正区 ツツジ
天王寺区 モモ パンジー	浪速区 ナデシコ	西淀川区 サザンカ	淀川区 パンジー	東淀川区 コブシ	東成区 バラ パンジー	生野区 アジサイ	旭区 ハナショウブ
城東区 モクレン コスモス	鶴見区 ハナミズキ ニチニチソウ ツツジ	阿倍野区 モモ パチュニア	住之江区 サザンカ	住吉区 カキツバタ	東住吉区 ナデシコ	平野区 ワタ	西成区 ハギ

第17回サマースクールの参加者を募集します

夏休みの期間中、動物園で動物の観察や飼育係の仕事を見学し、また映像館でアイマックスを観たり、温室を見学したりして、動物や植物について勉強します。対象は小学4・5・6年生のみです。次のつごうのよい組をひとつ選んで申し込んでください。

- 1 日時 第1組 7月23日(火)・7月24日(水)
第2組 7月25日(木)・7月26日(金)
第3組 7月27日(土)・7月28日(日)
- 2 参加資格 小学校4・5・6年生(ただし、保護者の同意があって2日間つづけて動物園まで通える者。)各組60名計180名
- 3 参加費 1名1,500円(テキスト、記念写真、修了証などの費用。)

- 4 申込方法 6月30日までに、往復はがきで返信はがきには①サマースクール第組に参加希望、②住所・電話番号、③氏名・年齢・性別、④学校名・学年、⑤保護者氏名を記入し、返信用はがきのおもてに自分の住所・氏名を記入して申し込んでください。はがきは1通のみ申し込み可能。
- 5 申し込み先 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 大阪市天王寺動植物公園事務所サマースクール係
- 6 その他 保護者の参加はできません。子供の送迎だけにしてください。参加できなくなった場合は必ず連絡してください。

動物園ニュース

なぎごえ27 (6),1991

§ ホッキョクグマの子供の愛称決定!!

昨年11月30日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃんの愛称を募集したところ20354通もの応募があり、審査の結果「みゆき」と決定しました。「みゆき」は1615名の応募があり、2位の「ゆき」との差を335票もあげました。

4月21日には、命名式も開催され、「みゆき」の名前に応募して下さった



ホッキョクグマの赤ちゃん命名式

1,615名の方の中から、抽選で100名の方に、ホッキョクグマのぬいぐるみをプレゼントしました。

§ 動物園・公園の再入園システムはじまる

動物園と公園の利用者がより一層、施設を気軽に、便利に利用できるように、4月25日(木)から再入園システムを導入しました。再入園のやり方は、退園する際、再入園希望者に職員が蛍光インクをふくませた象と花の絵柄のスタンプを整理券に押し、再入園の際、紫外線ランプを整理券に照射し、その像を確認して入園していただくというものです。

§ 春の動物と花のフェスティバル'91開催

今年も昨年に引き続き、春の動物と花のフェスティバルが4月21日から5月6日まで様々なイベントを盛りこんで繰り広げられました。ステージの催しは、日曜、祝日だけですが、飼育係員が担当動物を紹介する「こんにちわ、どうぶつくん」や大阪動物



子供参加によるブロック組立て

園ボランティアによる「劇とブロック組立て」など5種類の催しが行われました。そのほか、動物の無料相談コーナーや動物の赤ちゃん写真展等が動物園内で、花のスタンブラーや春の山野草展が公園内で開催されました。なお、公園では、4月29日から5月12日にかけて、「は

現在の飼育動物数

(平成3年4月30日現在)

哺乳類	13目	94種	411点
鳥類	20目	179種	742点
爬虫類	3目	32種	71点
合計	36目	305種	1224点

ならんまん'91」と題して、花の万博メモリアルイベントが開催されました。

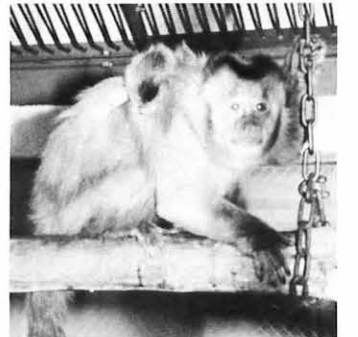
§ ベビーラッシュ

4月に入って1日から8日までの間に、バーバリーシープ舎で5回の出産があり、4頭のバーバリーシープの子供が順調に成育中です。11日にはニホンザルが、今年初めての出産があり、2頭目は28日に生まれました。サルハウスでは、20日にマントヒビが生まれ、28日はフサオマキザルが生まれました。夜行性動物舎では、15日に、セズクススが生まれました。去年に引き続き、ワライカワセミとハイイロコクジャクが自然ふ化しました。人工ふ化では、コサンケイヤカハシハジロが順調にふ化しつつあります。



4月生まれのバーバリーシープの子供

背中赤ちゃんをおんぶするフサオマキザルの母親



● お知らせ

動物のお話とスライドの会

- 6月16日(日) 今年生まれた動物の赤ちゃんのお話
 - 7月21日(日) 保護動物のお話
 - 8月18日(日) カバのお話
- 時間：午後1時～2時
場所：レクチャールーム
カバ舎前

● テレホンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレホンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。

電話番号 771-9999

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光 / 監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社 / 〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400

ピントが合いやすいフィルムです



カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。（英文学者）
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。（動物研究者）
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。（動物愛護家）

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象 / 保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間 / 10日間
- 貸出料 / 無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先 / 当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

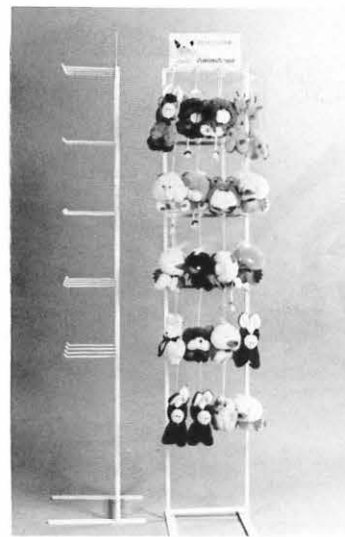
オールカラー

500円

園内売店にあります。



大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

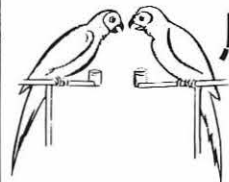
各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号

TEL : (06) 704-8580

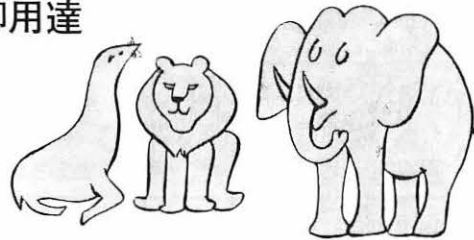
FAX : (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

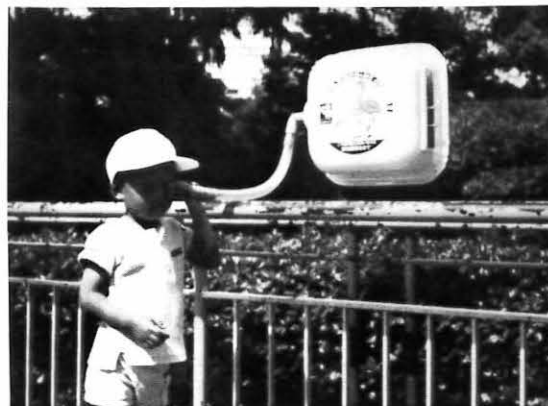


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社

電話 06-762-2333

1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

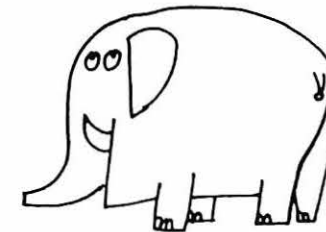
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444



雪印乳業

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー とってもゼリー



とってもオレンジ



とってもピーチ



とってもキウイフルーツ



とってもグレープフルーツ



とってもマンゴー



とってもパイナップル

一日
愉快地に
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1991年6月10日発行(毎月10日発行)第27巻 第6号 (通巻310号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共) 振替口座 大阪3-3 7 8 2 3

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 7 7 1 - 0 2 0 1

編集委員 (中山良三郎 / 村上 昭 / 中尾啓一 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 山根和弘 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二 / 榊原安昭)
(森本委利 / 竹田正人 / 永田健一 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 健 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道)